

「あん」にこめられた思い

岩澤 隆子

『人間は生きることには価値がある』、らい病に苦しみ、その絶望の中から生まれたこの言葉が、北条民雄の自伝の小説「いのちの初夜」にあって、ずっと心に残っていました。

題名に惹かれて読んだ『あん』という小説も、らい病（ハンセン病）を患い、少女期に多摩天生園に隔離された女性の、「あん」づくりに込めて語られる半生の物語でした。

夭折の北条民雄の思いを更に深めて、小説『あん』は、美しい桜の四季を背景にして、見えないものを見、聞こえない言葉に耳を傾けるひたむきさで、普遍的な「生きる意味」を探す重たく悲しい作品なのですが、読後を優しい思いで満たす、心に残る本でした。

線路沿いの商店街の一角、満開の桜の木の下で、どら焼きの店「どら春」の店長千太郎が、絶妙なあんを作る高齢の女性、徳江と出会うところからこの物語は始まります。

千太郎は服役後、借金の返済のために任された好きでもないどら焼き作りに鬱々とし、自らをゴミと貶め、自死も思う中年の男。

その千太郎の悲しい目が気になり、求人の張り紙を見て、働けないかと徳江は声をかけたのです。徳江の変形した顔と手に異常を感じ、高齢を理由に採用を断る千太郎ですが、徳江が持参したあんの味に驚き、雇うのです。

朝の六時から、五時間をかけてじっくり炊きあげるあん。何度も灰汁を流し、丁寧に小豆の一粒一粒に愛情を込めて、ふっくらと炊きあげる徳江。驚くのは、煮る小豆の鍋に顔を寄せて、小豆の煮える声を聞き、優しく励ましの声をかけ続けるのです。千太郎はその姿に驚き、徳江のあんのどら焼きを、甘いものが苦手なはずが完食します。そのあんの作り方を徳江はメモさせ、千太郎に教えます。

極上のあんにどら春は繁盛し、店の前に行列が出来、初めて完売の札もかかりました。

あん作りから、客に売るのも手伝うようになり、徳江は客との、特に女学生との会話を喜びます。ワカナちゃんもその一人でした。しかし、桜の葉が散りかけた頃、どら春の客足がぱったりと途絶えます。その原因が自分にあると気づき、徳江は店を去って行きます。完治している徳江のらいが心配ない事を千太郎は知って

いましたが、人の眼を気にして、徳江を引き留められませんでした。

廃業の危機に陥った千太郎を心配した徳江から、店を気遣う励ましの手紙が届きます。

カナリアを預ける約束をしたワカナちゃんと、千太郎は多摩天生園を訪れます。二人との再会を徳江は喜び、お汁粉を振る舞います。そこで初めて、想像を絶する徳江の今までの日々を知り、驚きに言葉を失います。

十四歳で発病して愛知から多摩の天生園に来て、一晩で母が作ってくれた白いブラウスも含めて全ての持ち物も、自分の名前も取り上げられ、この園の中から一生出られないことを知った少女徳江の驚き、絶望。この囲いの中で、自分の叶わぬ夢に泣き、故郷への思慕を桜の花で慰め、絶望の垣根を心の中で乗り越えようとして徳江は生きてきました。

二十歳を過ぎて、同じ患者の菓子職人と、断種手術を受けて、結婚しました。夫婦は園の中の製菓部で活動し、あんを炊き、菓子を作り、同病の人たちに振る舞い、一緒に食べて、終の垣根の中で五十年を生きたのです。長く闘病に苦しんだ夫が亡くなって

十年。

戦後に出た新薬でらい患者は無くなりましたが、一九九六年に「らい予防法」が廃止されるまで、五十年も隔離が続けられたのです。

自由になっても、家族に拒まれて故郷に戻れず、外出しても知る人もなく、偏見の目は消えず、徳江の孤独はますます深まります。

その頃から、徳江は木々や草花の声が聞こえると耳を傾け、自らも積極的に草花に話しかけて、周りに気味悪がられて嫌われま

す。  
勿論、「草木が言葉を話す」など無いことを徳江は知っていました。だが、そう思わずにはおれない徳江の孤独の深さがありました。

でも、「佳く生きたね。私はお前に見て欲しかったんだよ」と言う満月の声は本当です。

「私はそれを見るため、声を聞くために生まれてきたのよ」と手紙に書き遺した徳江。

偏見の目に負けて、どら春に徳江を引き留めなかったことを悔いる千太郎と、今の私はどれほど違う人間かと情けなくなります。

「世の中の役に立たなければ生きる意味が無い」、この考えは立派で、否定できません。

しかし、役に立たずとも、誰もが持てる普遍的な「生きる意味」はあると、徳江は思う。

美味しいあんの作り方を千太郎に伝えて前を向かせ、徳江は逝き、桜の木になりました。

小さい頃、らい病は伝染する恐ろしい天刑病と教わりました。

それは明治からの自国を強く見せたい、弱者を隠す日本の国策でした。

『見ること、聞くこと』も生きる意味と思えば、病気の人、寝たきりの人、幼く逝った子供、重い障害に苦しむ人に心の灯りとなります。老いが忍び寄るのを感じる身に、『あん』の優しさが滲みてきます。